

校長室より

第58号

「天空高き」



平成26年4月11日

入学式

3月1日に、203名の卒業生を送り出しました。そして、4月8日には、付属中学33名、高校273名、総計306名の新入生を迎えることができました。

また、4月2日には岩国短期大学幼児教育科の入学式があり、70名の新入生がありました。

今年度高水学園では、中高校生804名、短期大学生123名、総計927名、教職員が中高と短大で141名、総合計1068名が集い在籍しています。

この世に生を受けて一番の仕事は、自分を育て、より高めることです。そのために一番大事なことは「縁を生かす」ことです。

縁を生かすか生かさないかは、縁を生かそうという「想い」があるかないかに尽きると思います。「想い」は「志」につながります。一人ひとりが是非高水学園で、縁を生かしてもらいたいと思います。



関東支部同窓会

高水学園には7つの同窓会支部（関東・関西九州・広島・由宇・熊毛・韓国）があります。

3月29日（日）には関東支部の同窓会が、2年ぶりに御茶ノ水駅近くの東京ガーデンパレスで開催されました。

関東地区等の同窓生が92名。恩師の方々も10名駆けつけて下さり、総勢102名。御年



Dream can do, Reality can do.

「思い描くことができれば、それは実現できる」

NASAの門柱に

87歳、昭和19年に卒業された林大先輩の乾杯の音頭で宴がスタートしました。

その席には、世話人である、代表作「島耕作」シリーズ、現在ビッグコミックオリジナルに連載中の「黄昏流星群」等で活躍されている弘兼憲史さんも出席され、同窓生に気軽にサインしたり、一緒に記念写真に収まっておられました。

ちょうど桜も満開で、本当に楽しいひとときを過ごすことができ、感謝の気持ちで一杯です。

山高く 水清しー新学期を迎えてー

「山高くして水清し 流れに立ちて源を思う」と、第一校舎事務室前の四代校長宮川忠蔵先生胸像の台座に、この一節が記してあります。

明治31年4月10日に高水村塾開校以来、学園が「高水」の地にあること57年。岩国に転出して60年という節目を迎えることになりました。

「高水」の地名が、“山高くして水清き里”ゆえに、校名が「高水」となり、117年を迎えます。

流れに立ちて源を思う、とは、すなわち創立以来の歴史をひもとき、建学の精神に立ちかえれ、と解釈できます。

では、高水の建学の精神とは何でしょうか。創立以来一貫して明治、大正、昭和、平成四代の長きにわたり継承された教育方針は、「人格の錬成と教育の実践」です。それを踏まえ、校訓は「徳性の陶冶（とうや）」、人格を磨き、真正の人物を養成することを掲げました。そして、教育方針は、師弟間の親愛の情、すなわち教師と生徒との精神的な交流を深めることの「師弟親愛」、生活は質実であることの「質実剛健」、人間は勤勉であることの「勤労実践」の3つを伝統精神として継承しています。

今年度の重点教育目標は、「山高く 水清し」です。その意味するところは、山のような高い志と、清い心、すなわち感謝と謙虚な心を持つということで、勉学に、学校行事や部活動に、この目標を掲げ、仲間と切磋琢磨してもらいたいと思います。

また、3つのCで自分自身を **Change**、変えてもらいたいと思います。

Confidence：自分を仲間を先生を信じて、

Communication：自分の思いを相手に伝え、また相手の思いを受け、

Challenge：失敗を恐れず挑戦することです。

最後になりますが、今年の**チャレンジ目標**は、次の3つです。本当に当たり前のことですが、当たり前のことを毎日続けることで、やがて大きな可能性を生むことがで



きます。

1. さわやかな挨拶をしよう
2. 心を込めて挨拶をしよう
3. 学習習慣を確かなものにしよう



学び続けることの大切さ ー佐藤一斎に学ぶー

少（わか）くして学べば、則（すなわ）ち壯にして為（な）すこと有り。

壯にして学べば、則ち老いて衰（おとろ）えず。

老（お）いて学べば、則ち死して朽（く）ちず。

佐藤一斎「言志四録」三学戒より

「子供のころからしっかり勉強しておけば、大人になって人のために重要な仕事をすることができる。

大人になってからも更（さら）に学び続ければ、老年になっても気力や精神力は衰えることなく元気でいられる。

老年になっても尚学ぶことをやめなければ、ますます高い見識や品性を持って社会に向かうことができ、死んだ後もその精神や業績は残り、次の人々にも引き継がれていく。」

佐藤一斎といっても知っている人は少ないと思います。吉田松陰は知っていますね。長州藩出身で幕末に萩で松下村塾を開き、伊藤博文など後年活躍する人たちを育てました。そしてこの吉田松陰の先生に当たる人が、佐久間象山で、その象山の先生に当

たる人が佐藤一斎です。つまり吉田松陰は佐藤一斎の孫弟子ということになります。

佐藤一斎は七十歳の時、幕府が設立した唯一の大学である昌平坂(しょうへいざか)学問所(昌平覺(こう))を統括した儒官となります。今で言えば東京大学の総長にあたる人です。当時の日本には、全国に230余りの藩の学校(藩校)がありましたが、その藩校の中で優秀な成績を収めた者がさらに昌平覺に進学しました。

佐藤一斎の著(あらわ)した書物として有名なのが『言志四録』です。この書物が最近、特に注目されたのは、小泉純一郎首相が平成13年5月、教育改革関連基本法案を議論している衆議院の席で、この書物の一節を引用して話をしたからです。



カナダポールケイン高校と姉妹校に

町) 高水高 カナダに姉妹校

国の事業契機 交換留学など予定



前田校長(左端)に昨年5月の交流の様子を報告する西藤さん(左から2人目) 豊田さん(同3人目) 松本君

3月10日にカナダ・アルバータ州セントアルバート市のポールケイン高校と姉妹校の提携にサインしました。昨年の5月に本校での学校交流、そして今年の1月にはポールケイン高校での交流が、今回の姉妹校提携に大きな役割を果たしてくれました。生徒の短期・長期留学を含め、より一層の国際交流を通して、異文化理解につなげていきたいと思えます。(左記記事:中国新聞3月28日)

町) 高水高(岩国市尾津)が、カナダ・アルバータ州のポールケイン高と姉妹校提携を結んだ。今後、交換留学などで交流を進める予定にされており、生徒からも喜ぶ声が上がっている。

姉妹校提携は昨年5月にあった外務省の青少年交流事業で、岩国市を訪れたポールケイン高と高水高の両生徒が親睦を深めたことが契機になった。行事に参加した高水高2年西藤志帆さん(17)は「事業がきっかけになったことはうれし

い」。交流は今も続いており、2年松本涼太君(17)は「仲良くなった生徒が夏にまた来ると言っていたので、空手を教えたい」と話

す。

提携は10日付。今後は両校間で生徒の留学や教職員の研修などを実施する予定で、前田茂雄校長は「国際交流を深めることで、異文化理解につなげてもらいたい」とする。

生徒会長の2年豊田のかさん(17)は「岩国市だけでなく、日本のいいところをカナダの生徒に紹介していきたい」と話している。

(友岡真彦)

